シンポジウム1

育児支援ネットワークの構築に向けて

乳幼児健診から療育へつなぐ育児支援

山下悦子（鹿児島県松元町役場保健師）

はじめに

市町村で実施しています乳幼児健診から，障害児に対する療育と育児不安など育児支援につなぐための，松元町の取り組みを紹介いたします。

松元町は鹿児島市に隣接しており，JR鹿児島本線が東西に通過し，2つの駅があり西鹿児島駅から10分位で着く位置にあります。

産業としては，農業でお茶の産地として栄えてきました。

また，スポーツは卓球の町として知られています（図1）。

人口は12,571人で，鹿児島市のベッドタウンとして人口は年々増加しています。出生数は平成13年までは，90人前後でしたが，平成14年は，106人に増加しています。乳幼児を持つ世帯の転入も多く，乳幼児数は多くなってきています。

平成12年国勢調査では核家族世帯率は県平均より高く核家族化により育児に不安をもつ母親も多くなってきています（図2）。

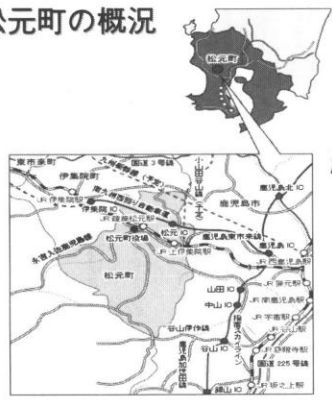
子育て支援

松元町は，第4次総合振興計画の中に，子育て支援の基本方針として「**すこやかで人にやさしいまち**」を掲げています。

図3は，この基本方針に従って，私達がすすめている育児支援の体系図です。

母子保健活動として母子健康手帳交付から乳幼児健診や教室等を開催しています。地域では，育児サークル開催や民生委員・母子保健推進員が活動しています。

松元町の概況



産　業

農業（お茶）

スポーツ

卓球のまち

図1

松元町母子保健の概要

■ 人　口　12,571人（平成15．4．1）
■ 出生数　106人（平成14　）

■ 核家族世帯（6歳未満）　平成12年国勢調査
10．4%（松元町）
9．2%（　県　）
（18歳未満）
28．9%（松元町）
22．9%（　県　）

図2

保育園・幼稚園でも子育て支援として園の開放などを行っています。

乳幼児健診

乳幼児健診を3～4か月児から3歳まで実施

鹿児島県松元町役場保健福祉課　〒899-2792 鹿児島県日置郡松元町上谷口2883
Tel：099-278-2111　Fax：099-278-4189

Presented by Medical*Online

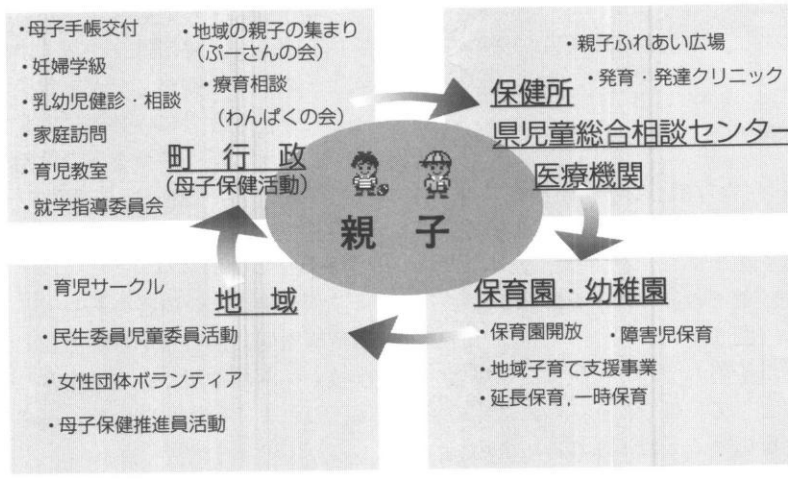


図3　松元町育児支援の体系図

していますが，9～11か月児健診は医療機関委託でその他の健診は保健センターで実施しています（図4）。健診・相談では月齢に応じた子どもの心身の発育発達のチェックや診察，母親等の訴えを聞きながら，異常の早期発見・早期対応へつながるようにしています。

最初の健診である3～4か月児健診の受診率は100％近くで，その他の健診は90％前後です。

1歳児と2歳児では，保育士による親子遊びや絵本の読み聞かせを取り入れながら，親と子のふれあいや絵本の大切さなどを伝えたり，母親同士の交流の場にもなるよう配慮しています。1歳6か月児健診と3歳児健診では，心理相談員も配置し，ことばや精神面の発達など子どもの発達をより専門的な視点から判断し，適切なアドバイスや支援が提供できるようにしています。

また，健診・相談では，その時期に必要な生

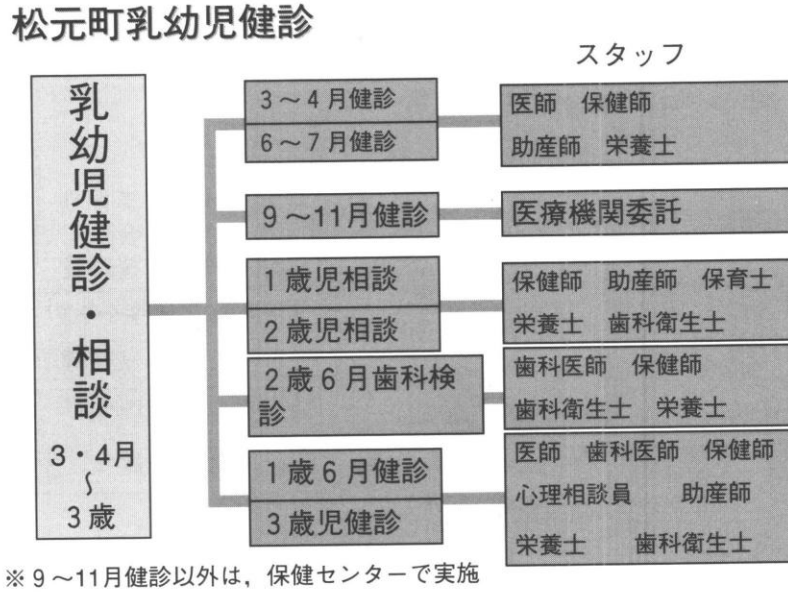


図4

Presented by Medical*Online

活・食事などの保健指導や友達づくりも含め，子育てを楽しめるような雰囲気づくりに努めています。

健診結果との関連

健診の結果，母親の育児不安がある場合には，要指導ということで，育児教室や保育園の実施する地域子育て支援事業などを紹介しながら，次回の健診や相談でその後の様子を確認するようにしています（図5）。

心身の発達や母子間の関わりで気になる場合には，経過観察として，町で行う「わんぱくの会」や保健所が実施する「親子ふれあい広場」を紹介しています。

疾病や発育発達の遅れの疑いがあり詳しい検査が必要な場合には，医療機関や保健所の発育発達クリニック・児童総合相談センター等でみてもらっています。

わんぱくの会

健診後の支援として実施している教室の事例を紹介します。

平成2年度から開始した療育相談の場である「わんぱくの会」が最初の取り組みでした（図6）。

乳幼児健康診査等で経過観察の必要な子どもや障害のある子どもと保護者に対して支援・相談の場を提供するということが目的でした。

内容として，集団遊びや親子遊びを通して，親と子の様子を観察しながら親子のかかわりを強めたり，保護者には必要に応じて療育相談を行い，療育の場へのつなぎの役割や交流の場としています。現在，脳性麻痺の子どもや心身の発達の遅れのある子どもや保護者が参加しています。

脳性麻痺などの障害のある子ども達は，専門の療育機関に通いながら参加しています。また，学校が休みの時期である夏休みと冬休み時期には，これまで参加した全員に連絡して参加してもらっています。

この会は，図7のような流れで行っています。スッタフとしては理学療法士・保育士・保健師で開催していますが，年2回は県児童総合相談センターの先生に個別相談をしてもらっています。

町が行う療育は，訓練というよりは，いろいろな遊びを通して子ども達が成長するようなプログラムにしています。写真1，2はわんぱくの会の様子です。それぞれ季節に応じた遊びを取り入れるようにしています。

写真3は，親の会の様子です。小学校や中学校に通っている親子の参加もあり，障害のある子どもの就学について先輩から話を聞いたり，先生からアドバイスを受けているところです。

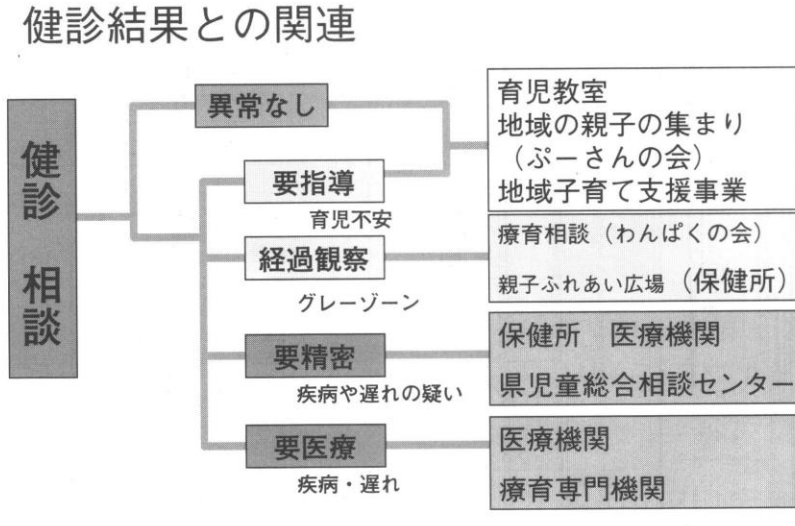


図5

Presented by Medical*Online

わんぱくの会（1）

平成2～

■ **目的**

乳幼児健康診査等で，経過観察の必要な子どや障害のある子どもと保護者に対して支援･相談の場を提供

■ **内容**

1　集団遊びや親子遊びを通じた，親子の関わりの強化
2　療育相談の実施
3　保護者の交流

図6

わんぱくの会（2）

■ **日程**

10：00～10：30　受付・健康チェック
10：30～11：00　親子遊び
11：00～11：30　集団遊び・課題遊び
11：30～12：00　おやつ・絵本の読み聞かせ

■ **スタッフ**

小児科医（年2回）　理学療法士
保育士　保健師

■ **月1回　保健センターで実施**

図7

写真1　7月に行った七夕まつりの様子

写真2　毎回必ず会の中で取り入れている「絵本の読み聞かせ」の時間

写真3

今はまだ，行政主体で開催していますが，もっと活発化させるためにも，自分達でやっていきたいという意見が出てきました。それぞれ障害の違いなどもあり，難しい面もありますが，地域で療育を育てていくためには，まずこういった，親同士がつながりの場を持ち，学習や交流をすることが大切だと思います。

育児教室

わんぱくの会の活動を始めて2年経過した頃より，障害のある子どもや観察の必要な子ども達以外に育児不安の母親や母子間の交流を求める多くの親子が自発的に参加するようになってきたことから，平成5年度から「育児教室」が始まりました（**図8**，**写真4**）。

ぷーさんの会

これまでの2つの会は，町の中心地にある保健センターで行ってきたのですが，平成13年度から新たに，地域の各公民館で「親子の集まり」（通称　ぷーさんの会）を開催するようにしました。

身近な生活の場で親子間の交流ができることと，地域の母子保健推進員や民生委員等のボランティアの協力をもらうことで，地域の人々とのつながりができ，親子が孤立することがない

Presented by Medical*Online

育児教室　平成5～

■ 目的

育児不安の親子を対象として，親子遊びや集団遊びをとおして，親子関係・友達関係を築くとともに，保護者に対してゆとりある楽しい育児ができるよう支援する．

■ スタッフ

保育士　保健師

■ 月1回　保健センターで実施

図8

ぷーさんの会（地域の親子の集まり）平成13～

■ 目的

身近な地域で，親子が気軽に参加できる交流の場を提供する．また，地域の母子間のつながりをもてるようにするとともに，母子保健推進員や民生委員とのふれあいの場とする

■ スタッフ

栄養士　保育士　保健師　母子保健推進員
民生委員　　食生活改善推進員

図9

ようにすることを目的としています（図9）。

この会では，みんなで一緒に遊んだり話をしたあと，食生活改善推進員手作りの昼食を食べながら交流を深めるようにしています。写真5，6は，ぷーさんの会の様子です。この地域の集まりである「ぷーさんの会」をきっかけとして，保護者が主体的に「育児サークル」を開催する地域もでてきました。

このような取り組みを踏まえて，いろいろな関係者と話し合いができ，これまでよりも連携がとりやすくなってきました。その結果松元町でも，「健やか親子まつもと21」を作成し「子ども達が健やかに育ち，安心して子育てができる町」づくりのために家庭，地域，学校，行政等の具体的な取り組みを盛り込むことができました（図10）。

成果と課題（図11）

これまでの取り組みを通じ成果として，

① 健診後の対応として，療育から始まった支援が，育児不安のための教室など目的に応じた体制ができてきました。

② 地域の親子の集まり（ぷーさんの会）がきっかけで，各地域で保護者主体の育児サークルが立ち上がってきました。

③ 地域の女性団体が，親子を応援するため，地域の親子の集まりや育児サークル等に参

写真4　育児教室で遠足に行ったときの様子

写真5　町内で最も子どもが少ない地域の公民館ですが，地域の推進員さん達と一緒に親子遊びをしているところ

写真6　栄養士が食事の大切さなどの話をしたあと，昼食を摂り交流を深めているところ

Presented by Medical*Online

図10

成果と課題

■ **成果**

1　療育から始まった支援が，育児不安のための教室など目的に応じた体制が明確になった．
2　保護者が主体的に，各地域で「育児サークル」を開催するようになった．
3　地域の女性団体が，ボランティアで参加．

■ **課題**

1　障害者親の会活動の強化と支援．
2　障害の有無にかかわらず，子どもと親を地域で見守り育てていく体制の強化と継続．

図11

まとめ

■ 乳幼児健診は心身の発達チェックや疾病等の早期発見・育児不安の把握等をするとともに，必要に応じて育児支援や療育へつなぐきっかけづくりとして大切な場である．

■ 住民自らが子育てについて考え，家庭，地域，学校，行政等の子どもに関わる人々が一体となった取り組みをするための育児支援のネットワークづくりをすすめていく必要がある．

図12

加するようになり，また，6～7か月児健診の時，対象者全員にメッセージと絵本を，プレゼントしてくれるようになり地域の人とのかかわりが深まってきました。

一方課題としては，

① 主体的な障害者親の会活動ができていないので，今後充実していくように支援していく必要があると考えています。

② また今後，障害の有無にかかわらず，子どもと親を地域で見守り育てていくという住民の意識づけと体制の強化・継続が必要であると思います。

ま　と　め（図12）

最後に乳幼児健診は心身の発達のチェックや疾病の早期発見・育児不安の把握等をするとともに，必要に応じて育児支援や療育へつなぐきかけづくりとして大切な場です。

住民自らが子育てについて考え，家庭，地域，学校，行政等の子どもに関わる人々が一体となった取り組みをするためのネットワークづくりをすすめていく必要があると考えています。

Presented by Medical*Online